自分たちのまちなんだから自分たちでなんとかやってみようという想いを共有して行動するための条例(素案)((仮称)市民活動推進条例)に対する意見及び市の考え方

NO.	意見の概要	市の考え方
1	第3項について、「外国人」という言葉を入れ、共に協力して鎌倉のまちづくりを強化していくこととしたらどうか。また、立場等の違うものが理解し認め合うためには「それぞれの違い」を理解することが必要と考えるため、そのように文章を整理したらどうか。 また、第5項の文章が非常に長く、読んでいて内容がわかりにくいため、文章を整理したらどうか。	本条例は「このまちに住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わるすべての人々」一人ひとりがまちづくりの主役として輝ける舞台を整え、更に魅力的な鎌倉のまちを創っていくためのものです。その一人ひとりには、国籍に関わらず「このまちに住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わるすべての人々」が含まれており、外国籍の方も含め、共に協力して鎌倉のまちづくりに取り組むことのできる環境づくりを進めていきたいと考えております。 また、文章については、提案を参考にし、文章の整理を検討してまいります。
2	各種会合を重ねて素案をまとめた努力は良いことだと思う。しかし、検討段階からもっと広くの団体等へ呼びかけをするべきだったのではないかと。 検討会における①現状の鎌倉市における地域の課題についての認識、②その解決策のポイント、③条例策定後の推進に当たっての具体的な課題等についてどのような認識になっているのか。 また、本条例素案は抽象的過ぎて、具体的な方策が見えない。この条例はどのような役割を担うものとして策定されるのか。	検討委員については、できる限り多様な立場や運営形態の市民活動団体等から意見を聞くため、団体の活動分野等様々な視点を踏まえ、委員候補を選考するとともに、委員の公募も行いました。また、多くの意見を伺うため、検討会だけではなく、ワークショップやシンポジウムを実施いたしました。 鎌倉市は、今までも市民活動団体等による市民活動や地縁組織等による地域活動が活発に行われてきたまちですが、少子高齢社会の進展、女性の社会進出などライフスタイルは多様化し、これまでの行政サービスのあり方では、市民のニーズを満たすことが難しい時代が到来しています。市民ニーズを充足させるものは、行政によるサービスだけではなく、市民活動団体等による市民活動、自治町内会等地縁組織による地域活動、企業のビジネス活動など様々です。これらが相互作用することにより、個性豊かで活力ある地域社会が真に創造できるものと考えております。 その上で、検討会では、委員のみなさんが実際に活動されている中での経験や感じていること等から、今の鎌倉市の課題、改善策、必要な施策等の議論が行われました。 その議論を基に、市民活動をはじめとした地域での様々な活動を推進していくため、協働を推進していくための具体的な施策等を定めた指針について議論を深めてまいります。 本条例は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 そして、条例の制定をきっかけとし、市民自治の確立に向け、市民力・地域力を高めるための意識向上や、地域での様々な活動の活性化、多様な主体が繋がることのできる環境づくり等に向けた具体的施策を更に推進していくものです。
	第1項～3項の市民、第4項の市職員に対し、第5項の鎌倉市とは誰を指すものなのか。	第5項の鎌倉市は行政としての鎌倉市を指しています。第1項から第3項までの「わたしたち」は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方を指しており、その中には鎌倉市、鎌倉市職員も含まれています。 市は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えるとともに、活動を支援する役割を担っています。そのため、第1項から第3項とは別に、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めているものです。

NO.	意見の概要	市の考え方
3	行政主導でこのような条例をこの時期に制定する背景となる理由がわからない。その辺の明確な経緯の説明がないと企業のビジネス活動以外の市民活動と地域活動は原則ボランティアである故に理解を得るのが難しいのではないかと。 全てを行政サービスに頼らないで、ある程度市民主体での地域社会を作っていく方向は賛成だが、そのためにはその地域をまとめるリーダーが重要であり、そういった人材がいなくてはせっかくの条例が十分に活用できなくなる恐れがある。地縁組織に偏せず、意欲的で公正無私なリーダー人材の育成の仕組みづくりと納得のいくリーダー指名の方法の指針を併せて条例に盛り込むべきと考える。	鎌倉市は、今までも市民活動団体等による市民活動や地縁組織等による地域活動が活発に行われてきたまちですが、少子高齢社会の進展、女性の社会進出などライフスタイルは多様化し、これまでの行政サービスのあり方では、市民のニーズを満たすことが難しい時代が到来しています。市民ニーズを充足させるものは、行政によるサービスだけではなく、市民活動団体等による市民活動、自治町内会等地縁組織による地域活動、企業のビジネス活動など様々です。これらが相互作用することにより、個性豊かで活力ある地域社会が真に創造できるものと考えております。 本条例の制定をきっかけとし、市民自治の確立に向け、市民力・地域力を高めるための意識向上や、地域での様々な活動の活性化・多様な主体が繋がることのできる環境づくり等に向けた具体的施策を更に推進していくため、本条例を制定するものです。 市民主体のまちづくりには、ご意見のとおり「活動の主体となる人材」や、専門知識（ファンリテーター、専門家）、資金等の要素を揃えることが重要だと考えております。そういった環境を整えるために必要な具体的施策等について、引き続き議論を深めてまいります。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。
4	鎌倉市は他市に比べて市民活動が活発であり、自発的に活動に取り組む市民の割合は高いと思う。こうした既に市民活動に取り組んできた市民にとっては条例の内容が当たり前すぎて、条例の必要性について意味を感じないのではないかと。これまで活動に関心の薄かった市民にとっては、この条例が関心を持つきっかけになるかもしれないが、その次につながっていく情景が想像できない。 市民活動を推進していくためには、市民の意識はもちろんのこと、環境、場所、資金が不可欠であり、これらの内容が条例に盛り込まれていない。このままでは、本条例は「市民活動憲章」にはなり得るとしても、市民の活動を推進する条例にはならないと思う。指針も含めて条例としての形を整えた上で、再度パブリックコメントを実施したらどうか。	本素案は、鎌倉のまちをより良くしていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での議論を受け、この形となったものです。 本条例は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 ご意見のとおり、市民活動の推進には、環境、場所、資金等について検討していくことが必要だと考えております。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。
5	外国籍住民の方への日本語指導をボランティアで実施しており、講座の会場として生涯学習センターを利用している。会場使用の抽選に外れた場合は別会場を探すことになるが、なかなかすぐに見つからない。鎌倉市は、国際協力を謳い、文化交流を深めることを促進しているようだが、他市のように国際交流の拠点を常設してほしい。 外国籍住民の増加、多文化共生社会が日常となっていく現在、将来を見据えた鎌倉らしい視点をいかした条例を希望する。本条例素案は具体性が全くないのでよく理解できなかった。	国際協力に関する活動に限らず、ボランティア等市民の自主的で営利を目的としない社会貢献活動を支援するための施設として、市民活動センターを設置しています。 市民活動の拠点としての役割は市民活動センターが担うこととなりますが、会議室等活動場所の確保は課題であり、公共施設等との連携も含めた活動場所の環境整備について検討してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
	従来「市民活動推進条例」として委員会等で検討してきたにも関わらず、条例化にあたりこのようなふざけた条例名としたことには賛成できない。	検討会は「(仮称)市民活動推進条例検討会」として、市民活動の推進だけではなく、協働も含め検討を進めてきました。条例名は行政だけで最初から決めてしまうのではなく、検討会のみなさんと共に検討することとしていたことから、名称を(仮称)としていたものです。条例名は検討会で多くの議論を行い、その結果、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。
	条例の構成について、条建てされていない条例というのは初見である。前文が第1条なのか。形式を整えてほしい。 本条例には条文が存在しないが、このような様式不備の条例素案を意見募集することについて総務課法性担当の査読を得ているのか。得ているのであればその見解は何か。また、得ていないのであればなぜ査読を得なかったのか。鎌倉市では法制担当の査読を得ない条例を制定できるのか。	本条例は項建ての条例であり、第1条本文とその項として1～5項となっているものです。 条例は一般的に条建てされているものが多いですが、条建てされていない項建ての条例も存在します。 法制的な細かい整理はパブリックコメントでの結果を受けて行うこととしています。
	指針を検討する委員会条例も平成29年2月に制定する予定なのであれば、委員会条例案も同時に意見募集するべき。	意見募集については鎌倉市意見公募手続条例に基づき実施したものです。委員会条例は、委員会の組織及び運営を定めたものであり、鎌倉市意見公募手続条例の意見公募手続の対象に該当しないため、意見募集は実施していません。
6	市民のみが行う活動ではなく、市民(市民団体)と行政が協働して行う活動が議論されてきたはず。そうであれば、市民(市民団体)、行政は何をするのかを明確にするべき。本条例素案の1～3の「わたしたち」は市民のことを指すと理解したが、大切なのは市民と行政が同じ認識に立つことであり、それを先に述べ、その上でそれぞれの役割を決めるべきではないか。 なお、4項で市職員を独立させたのは、市民である市職員も市民でない市職員も同じように鎌倉を愛しなさいということであれば異論はない。	本素案における「わたしたち」は、市民の方だけではなく、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 直接的に市民活動や協働といった表現は使っておりませんが、第1項と第2項では市民活動推進のための基本理念、第3項において協働推進のための基本理念を謳っているものです。 第4項で市職員に関する内容を入れているのは、市職員も「わたしたち」の一員であり、市の立場で職員として施策等を実行していくという面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということに特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定したものです。
	5項の文章が長く、内容もわかり辛い。文章を整理してほしい。	ご意見を参考にし、文章の整理を検討してまいります。
	本条例は理念のみであるのに5項の委員会では何を見直すのか。施策は要綱で定めるのか。要綱は議会の審議対象外であり、性質的に条例の細部を定めるもので条例の規定の範囲を逸脱できない。よって理念条例には具体化条例が必須であると考えます。	第5項に定める委員会においては指針に関する事項、条例及び指針の見直しに関する事項等について調査審議を行うものです。指針には、市民活動・協働の推進についての人的、物的、財政的支援、情報提供等に関する内容が盛り込まれると考えております。条例及び指針の見直しについては、時代の変化に合わせ、今の鎌倉に何が必要なのか、どんな鎌倉を創っていきたいのか、それを市民の方と共に考え、条例と指針がその時代に合ったものになっているかを見直してまいります。
7	市への関わり方を理念として共有するいい条例だと思う。チャレンジなものは批判されるのは日本社会の悲しい部分だが、負けずに頑張してほしい。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
8	立場をこえて一緒に鎌倉をよりよくしていこうという思いが条例にこめられており、それを市役所が頑張っていて発信していることに感動した。	市職員も「わたしたち」の一員であり、市の立場で職員として施策等を実行していくという面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということを特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定したものです。現在は、職員研修の一環として、市民活動等に実際に参加し、共に汗を流すという体験型の研修を実施しておりますが、研修だけではなく、日ごろから地域の一員としてまちづくりに参加していくような環境を整えてまいります。
9	名称がわかりやすく誰にでも伝わる平易な表現が良いと思う。また「日本一長い」という特徴をもつことで、他地域にも伝わりやすく、鎌倉の理念を表現するのに最適だと思った。内容についてもシンプルにまとまっており、老若男女が共感できる内容になっていると思う。	多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしました。内容については、市職員も含め、条例を見た方々が「自分が鎌倉のまちを創っていく一員」であることを自分事として捉えていただけるような内容にまとめ、また共に鎌倉のまちを創っていく場として委員会の設置を謳った本素案の形としました。
10	市民活動を市への関わり方とすることを理念として共有する、鎌倉市民として誇れるいい条例だと思う。チャレンジすることが批判されるのは日本社会の悲しい部分だが、負けずに頑張してほしい。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
11	「わたしたちは、鎌倉のまちをつくっていくのはわたしたち一人ひとりであるという想いを共有し、自覚し、自らができることを実行する」というのはすごくいいことだと思う。鎌倉は、鎌倉を愛する人がとても多く住んでいるイメージがある。自分の町を愛する人が多いというのは、ほかの町にはなかなかない魅力の一つだと思う。先駆けて鎌倉でこのような動きがあれば、日本中に広がっていくと思う。	鎌倉市は、市民憲章でも謳われている、海と山の美しい自然環境と豊かな歴史的遺産をもつまち、ということももちろんですが、その歴史をつくり、守ってきたのは、鎌倉のまちを思い、自ら行動してきた人々であり、その「自分たちのまちのために自ら行動してきた」という伝統は、鎌倉が誇るべきとても大切な財産です。その良き伝統を未来に受け継ぎ、これからも、わたしたちが共によりよい鎌倉のまちを創っていくため、本条例を生かしていきたいと考えております。
12	新たなチャレンジとして、今までにないものを生み出そうとしている姿勢にとっても共感する。力になれることがあれば協力したいと想える初めての条例。今まで鎌倉市の条例で興味のあるものはなかったが、初めて関心を持った。条例成立を楽しみにしている。	鎌倉のまちを創っていくのは行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、実行していきたいと考えております。本条例は、より多くの人、一人ひとりが鎌倉のまちのための活動に触れるきっかけとなることを期待し、本素案の形となったものです。
13	市への関わり方を理念として共有するいい条例だと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
14	新しいチャレンジを受け入れ、育てる市であって欲しい。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
15	ぜんぶジブンゴト。応援している。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
16	自分の住んでいる街は自分たちが関わってよくしていく。行政任せにしないで市民が積極的に関わることを応援する条例、素敵だと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
17	自分たちのまちは、自分たちでないとなんともできないと思う。応援条例はとても良いと思う。 具体的な施策も市民の声で作られると、魂の入った施策になると思う。	皆様からいただいた意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方のご意見を伺って検討してまいります。
18	官民共有の面白い条例ができることを楽しみに応援している。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
19	一見長く思われるタイトルだが、一目で条例制定の目的が分かる素晴らしいものだと思う。 その中身についても、武家の古都の精神性を現代につなぐ正統的なものと言えると思う。 各論について述べられていないからこそ、現在のどのような課題に対しても、これから起こりうるあらゆる課題に対しても応用可能なものだと考える。したがって、修正の必要性は感じない。 ひとりの鎌倉市民として、このような条例の存在によって、まちづくりにもっとコミットしよう、それが鎌倉らしい生き方、そして自分の市民生活を豊かにすることにつながる、と素直に思える。	名称については、普段市民活動や地域活動等を行っている方だけではなく、あまり関心を持っていない方も含め、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にいたしました。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 この条例が、いただいたご意見のような「まちづくりにもっとコミットしよう」「それが鎌倉らしい生き方、そして自分の市民生活を豊かにすることにつながる」というような思いが多くの市民の方に広がっていくきっかけとなることを期待し、そういった方がより活動しやすい環境を整えていくための具体的な施策を検討してまいります。
20	市への関わり方を理念として共有するいい条例だと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
21	これからの鎌倉にとって街、人、文化にとってこの条例が成長の糧となる良いものだと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
22	とても面白いものだと思う。 鎌倉市は、他市町村に比べ個人で地域貢献活動をしている人が多い。鎌倉という地が大好き、人同士のつながりや温かさが大好き、海と山と穏やかな時間が流れとても心地よい場所だからこそ、この地に何か恩返しをしたいという思いを持つ人が多いからだと思う。だからこそ、変革を求める人もいて、また今の鎌倉をそのまま残したいという人も多くいる。 市民活動が活発化したとしても、市役所の許可が必要だったり乗り越えなくてはならない壁が多くある。その壁がこの条例によって、身動きがしやすく、役所任せではなく、市民主体の街にできたらよいと思う。 老いていく自分自身や、子供、孫の世代が街に希望を持って、未来を描くことのできるきっかけになる条例であることを期待している。	鎌倉は海と山の美しい自然環境、豊かな歴史的遺産などを有し、多くの方々に愛されてきたまちです。その一人ひとりが思う鎌倉らしさは多様であり、色々な形でまちへの愛着があると認識しております。 その一人ひとりが、自分のまちである鎌倉のため、まちを守り、創ってきたことの積み重ねで今の鎌倉があると考えております。 本条例の制定をきっかけとしてそういった「自分のまちのためにやってみよう」と活動されている方々が、より活動しやすい環境づくりを進めてまいります。 具体的な施策についても、行政が一方的に決めるのではなく、鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考えていくことにより、市民主体のまちづくり、市民が主役の鎌倉を創ってまいります。
23	市への関わり方を理念として共有するいい条例だと思う。私の住んでいる自治体にも欲しい条例。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
	前文における市民活動の位置づけが少しおかしいのではないかと、自然環境・歴史的遺産を守り発展させる活動の伝統があるという評価は否定しないが、そういった活動は市民活動のほんの一つの側面であり、その伝統を引き継ぐために市民活動が行われているわけではない。現実にはそういう活動以外にも、福祉、教育、国際交流、平和のための活動等多様な活動が展開されてきている。 市政は、市民の市民による市民のためのものであり、市民活動は市民の権利でもある。前文はこのような市民主権の精神を踏まえていないと思う。 そればかりでなく、素案全体が、上から目線で市政に奉仕する市民活動を求めているかのような印象を与える。 市民主権という考え方に基づいて条例をつくってほしい。	鎌倉は海と山の美しい自然環境、豊かな歴史的遺産などを有し、多くの方々に愛されてきたまちですが、その一人ひとりが思う鎌倉らしさは多様であり、色々な形でのまちへの愛着があると認識しております。ご意見のとおり、その自然環境や歴史的資産を守り発展させる活動だけではなく、自分のまちである鎌倉のために様々な活動をしてきた方々により、まちが守られ、創られてきたものと考え、前段(第1条本文)でも自然環境や歴史的遺産を守るための活動に限定して表現したものではありません。 本条例は、そういった「自分のまちのためにやってみよう」と活動されている方々がより活動しやすい環境づくり、市民が主役の鎌倉を進めていくための第一歩とするものです。 市民活動は、一人ひとりの自由な意思により展開されるものであり、本条例において、鎌倉のまちのための活動への参加・協力等を強制するものではありません。 また、本条例における「わたしたち」は、「このまちに住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々」としており、市民の方だけではなく、行政、市職員も「わたしたち」の一員として、共に鎌倉のまちづくりに取り組んでいくものであり、市民の方に一方的に市政に奉仕する市民活動を求めているものではありません。
24	本条例は市民活動に注文をつけるためのものではなく、市民活動を推進するために市役所はこういことをしますということを宣言(約束)するためのものだと思う。(市民活動センターを設けて運営は市民に委ねる、指定管理者への委託、指定管理者への諸法令への遵守を求める、市民との共同事業を呼びかける、市民からの協働事業を受付検討する、市民活動促進のための情報公開を徹底するなど)それを踏まえ、第4項の公僕としての在り方についての記述としては極めて不十分であり、市民活動条例にはなくてもいいものだと思う。	本素案は、条例検討会での議論において、鎌倉の市民活動、協働を推進していくためには、条例に行政が担うべき責務を列挙し、行政が市民活動や協働に関して支援を行うことを約束することだけではなく、市役所、市の職員も含めた一人ひとりが鎌倉のまちを創っていくことを「自分ごと」として捉えていただけるような内容が良いとしてこの形となったものです。 また、市はまちを創っていく「わたしたち」の一員でもあります。市民活動・協働を推進し、活動を支援していく役割も担っており、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。 市職員の項目については、市の立場で職員として施策等を実行していくという側面もありますが、「わたしたち」の一員であり、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということに自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定したものです。
	奇をてらった名称は、中身の乏しいことをカモフラージュするためのパフォーマンスではないか。鎌倉市民として恥ずかしく思う。	条例検討会での議論において、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。
25	市民にとって、具体的な施策策定にあたり、意見を汲み取ってもらえるありがたい条例だと思う。高齢化率の高い鎌倉市において、住民活動は高齢者を対象としたものに偏りがちである。住民自ら地元のために活動を行うことが、小児・若者・子育て世代にとって魅力ある安心なまちづくりにつながることを願う。 「鎌倉市」とは旧鎌倉のことを指すのか、北鎌倉、山ノ内、西鎌倉、今泉台、大船、玉縄などどこまでを指したもののなのか。ここの定義が定まらない議論は深まらないと思う。あるいは、旧鎌倉、西鎌倉、大船、玉縄地域に分けた方が条例策定にはいいのかもしれないと思う。	具体的な施策策定について、行政が一方的に決めるのではなく、鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考えていくことにより、市民主体のまちづくり、市民が主役の鎌倉を創っていきたいと考えております。 本条例における「鎌倉市」は、行政区としての鎌倉全てを指したものです。

NO.	意見の概要	市の考え方
	進捗状況評価の委員・機関の設置をお願いしたい。 時間軸5年以内(交通事情対策、高齢者の運転対策、防災等)、10年以内(高齢者・自営業者に重きを置いた市政からの脱却、医療・介護、空き地・空き家活用等)、10年以上(交通事情対策、魅力あるまちづくり、電柱のない町並み、空き地・空き家の緑地化、防災等)など	今後設置する委員会において、指針に基づく施策等の進行管理を行っていくものと考えております。
26	人づくりは街づくり、という視座を持ち大人も含め、特に次世代を担う子供たちが街を好きになり、そのまた次世代のために役立ちたいと自然と思える様な学びの場を大いに展開するための良い契機として、また高齢の方達がこの街で生涯を過ごせて幸福であったと思える様な、サービスとしての福祉とはまた異なる安心感を得られる環境づくりの契機として、期待を寄せ支援をしたいと思う。70年前に消滅した鎌倉アカデミアの学びの精神を現代社会生活に敷衍して、自律のある学びの街づくりが推進されることを願っている。 柔軟性を持たせた条項という考えも良いと思う。議会の承認が民意のすべてとは限らない。街をつくるのは議会でもあり市民でもある訳で、民意がハンドリングできるプラットフォームに、この条例がなり得ることは大きな意味があると思う。柔軟性を持たせる上での条例の運用方法の肉付けにも期待をしている。	ご意見のとおり、人が育つことがまちが育つことに繋がっていく、人づくりはまちづくりという思いが本素案には込められており、第2条に定めたものです。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 その中で、本条例を形だけではなく、活用していくための運用についても議論を深めてまいります。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
27	「自分ができそうなことは自分で考えてやってみる」とても良い取り組みだと思う。他人任せで批判ばかりしていても生まれるのは嫌な空気だけでよい方向には変わっていかない。	本条例の制定をきっかけとし、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、また鎌倉のまちのために関わる方、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。
28	市に関わる人々が、市での取り組みへの意識を高める上でとてもいい条例だと思う。街を愛する人が街を良くしていけるようになるという。	本条例の制定をきっかけとし、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、また鎌倉のまちのために関わる方、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。
29	一人一人が当事者として問題意識を持ってよりよい暮らしができるよう考えて、行動しなければならぬと思っている。この小さな声が集まり大きな動きとして少しずついい方向に進んでいければいいと思う。	本条例の制定をきっかけとし、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、また鎌倉のまちのために関わる方、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。
30	市民が前向きに活動するのを後押しする条例とともに、今まで関わっていなかった層を巻き込むのに良いと思う。自分ごととして一緒に動けたら嬉しい。	本条例の制定をきっかけとし、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、また鎌倉のまちのために関わる方、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
31	素晴らしい条例だと思う。 学生時代からまちづくりや社会変容に、市民や若者ができることを研究してきた。最近ではポートランドのまちづくりのキーパーソンとやりとりをしており、ポートランドの都市再生モデルは日本の地域活性化に有用であると感じている。鎌倉は、自然と意識の高い人が集まっており、日本で一番ポートランドに近いのは鎌倉だと思う。鎌倉が変われば、日本が変わる。ポートランドのように、世界から視察が来るような都市になるポテンシャルが高いと思う。それは、世界への良いモデル都市となり、世界の街をも変えていくインパクトを持つことだと思うが、どうしてそうならないのかと見ていくと、一番のレバレッジポイントが行政と市民との協働だと感じる。 ポートランドのPDCのような、行政、デベロッパー、市民の間で調整・施行・管理の一切を行うような組織が、鎌倉のような規模の都市には必要だと思う。今回の条例は、その種になるものと感じている。出来ることがあれば、応援したい気持ち、このような条例の検討が進められたことに感謝している。	ご意見のとおり、各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させること、そういった流れへのきっかけ、種となっていくことを目的としたものです。 本条例の制定をきっかけとし、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。
32	条例検討会では熱い議論が交わされたと聞いているが、検討委員数名に聞き取りをしたところ「このような素案が提示されることを想定していなかった」と言っていた。検討会の意見を踏まえ条例素案をまとめたところ、最終的には市の責任において条例の体をなすようまとめられることは当然であると考え。一般的な市民活動推進条例ではなく、ユニークな条例にしたいと聞いていたが、例えば鯖江市の「市民主役条例」はユニークではあるものの盛り込むべき一定の条項は書き込まれており、指針に全てを委ねることはしていない。その意味では、全く中身が示されない全国初のユニークな条例素案となっている。 名称については、このようなひらがなが多く長い名称は狙いとは逆に全く心に響かない。「市民主役条例」は心に響き、理解しやすい。この名称で、市民活動に関心を持つ人がネットで検索した場合果たしてヒットするのか。	条例検討会では、パブリックコメント実施前に本素案を提示し、委員の皆さんで議論していただき、その検討の結果本素案をパブリックコメントで提示したものです。 本素案は、鎌倉のまちをより良く変えていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での議論を受け、この形となったものです。 条例検討会での議論において、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。 インターネットでの検索等、市民活動に関心を持たれる方、持たれていない方への周知については、世代や活動状況等のターゲットに合わせた周知方法を検討し、より多くの方々に広めていきたいと考えております。
	基本方針として謳われていることは理念であり、市民の心構えである。鎌倉市のように市民活動の盛んな土地において、条例で定めなければならない条項なのか。それよりも、市民活動推進のために市が、市民に何を約束するのか、このことが条例に最も謳われなければならない条項だと思う。 一般的な「市民活動推進条例」でなくても結構だが、市民と行政の協働を促し、住みよい鎌倉市のまちづくりを促進するための条例でなければ策定の意味はないと思う。多くの市民が納得のいく条例にするべく時間をかけて丁寧な条例を策定してほしい。	本条例は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 鎌倉市は、そのまちを創っていく一員でもありますが、ご意見のとおり、そういった市民活動・協働の推進のための環境を整えていく役割を担っており、また、協働のパートナーでもあります。 その具体的な施策等につきましては、行政が決めて一方的に支援をするだけではなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、市民活動・協働の推進の土台とするものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
33	本条例には、当然盛り込むべき条文がなく、市民が行政の考え方を測る手段が見当たらない。 ひと(条例の対象となる人の定義)、もの(公共施設や物資など利用上の便益等)、かね(活動支援のための予算)、情報(情報公開等)、これらのことは指針で処理すべきことではないと思う。行政と市民との信頼関係がなければ生きてきた条例にはなり得ない。時間をかけてでも議論を深め、市民の多くが納得し賛同できる条例作りを目指すことが大事であると考え。	本素案は、条例検討会での議論において、鎌倉の市民活動、協働を推進していくためには、条例に行政が行うべき責務を列挙し、行政が市民活動や協働に関して支援を行うことを約束させることだけではなく、市役所、市の職員も含めた一人ひとりが鎌倉のまちを創っていくことを「自分ごと」として捉えていただけるような内容が良いとしてこの形となったものです。 また、市はまちを創っていく「わたしたちの」一員でもありますが、市民活動・協働を推進し、活動を支援していく役割も担っており、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。 ご意見のとおり、鎌倉のまちを共に創っていくためには、行政と市民の方との信頼関係が重要であると認識しております。具体的な施策等を定めた指針を、行政が決めて一方的に支援をするだけではなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、市民活動・協働の推進の土台とするものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
34	題名からして不真面目で、市民への丸投げな印象を受ける。内容は当たり前のことばかりで、特に1から4までは今更のことだと思う。具体的なことは指針に書かれるとのことだが、その指針が議会で諮られないのは問題だと思う。こんな条例では恥ずかしい。	条例名は検討会で多くの議論を行い、その結果、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。 市民の方に丸投げしているということではなく、条例名、本文内の「自分たち」「わたしたち」は、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 具体的な施策等につきましては、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方と共に検討していくこととしていますが、条例において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。 行政が決めて一方的に支援をするだけではなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、市民活動・協働の推進の土台とするものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
	一文が長いので内容が読み取りにくい。目的を端的にまとめ、強調する書き方にしてほしい。	ご意見を参考にし、文章の整理を検討してまいります。
	条例検討会を設置し多くの委員で話し合ったとのことだが、この素案は検討会にフィードバックし、全員の了解の上パブリックコメントを実施したのか。	本素案と同じものをパブリックコメント実施前に検討会に提出し、委員のご意見を伺った上でパブリックコメントを実施したものです。

NO.	意見の概要	市の考え方
	条例の名称が長すぎる。短くわかりやすい方がいいと思う。この名称はサブタイトルとして掲げてはどうか。	条例検討会での議論において、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。 より多くの人により親しまれる条例とするため、愛称を考えるなど、広報の仕方を工夫していきたいと考えております。
35	前文に、「まちづくりの主人公となって自覚を持って行動していくため」とあるが、市民に単に自覚を促す事がこの条例の目的なのか。あくまでも市民活動を推進するための条例である事を謳ってほしい。「自覚を持って行動する」と言う事は至極当たり前の事であり、市と市民がどのような形で手を携え、市民活動を行っていくかを具体的に条文にしたものが条例ではないのか。 従って1～5までの項目にはスローガンではなく、行政として如何に市民活動を支援するのか、市民は行政とどう向き合うのかという具体案が述べられるべきであると思う。1～5の内容では「基本方針」とは言えず、単に心構えを羅列したに過ぎないものと解釈せざるを得ない。	本素案は、市民の方だけに自覚を促すことが目的ではなく、条例名、本文内の「自分たち」「わたしたち」は、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 鎌倉市は今までも市民活動団体等による市民活動や地縁組織等による地域活動が活発に行われてきたまちであり、「自分たちのまちなんだから自分たちでやるんだ」という思いを持って既に多くの方が活動されています。そういった方々がより輝いて活動できる環境を整えていくことはもちろん重要なことです。本素案では、既に活動されている方々だけではなく、そういったことに関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 条例に行政が行うべき責務を列挙し、行政が市民活動や協働に関して支援を行うことを約束し、行政が決めて一方的に支援をするだけではなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、市民活動・協働の推進の土台とするものです。
	市は、市民活動条例の素案についてパブリックコメントを行なったはずだが、「指針の策定」を来年度するとはどういうことか。とすれば、この条例素案はその前段「指針素案」と理解しなければならない。それなら「市民活動条例検討委員会」の開催は意味のないものだと思う。 このパブリックコメントは市民に何を求めているのかわからない。条例の素案と言いつつ、素案内容に具体的なものがなく、理念を掲げただけのもなのに「市民活動条例素案をとりまとめた」と言いつつパブコメをする必要はないのではないか。	(仮称)市民活動推進条例検討会は、市民活動・協働を推進していくための条例を制定するにあたり、今鎌倉市で制定する条例にはどういった内容を盛り込むべきかを検討する会議であり、その議論の結果素案の形となったものです。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としています。
	他自治体と比較すると、鎌倉市の市民活動は活発だが、市民と行政との協働に関しては年数や回数を重ねているにも関わらず十分な成果をあげているとは思えない。 したがって、市民活動については個々の活動を尊重すればいいことで条例化の必要はないと思う。特に1～3項は個々人の想いや自覚や認識の在り方を定め、互いの信頼や尊重まで踏みこむ記述になっており、条例によって市民一人ひとりの思想信条をしばりかねず、非常に恐ろしい条例案だと思う。	ご意見のとおり、市民活動は、一人ひとりの自由な意思により展開されるものであり、本条例において、鎌倉のまちのための活動への参加・協力等を強制するもの、思想信条を縛るものではありません。 鎌倉市は今までも市民活動団体等による市民活動や地縁組織等による地域活動が活発に行われてきたまちです。本素案では、既に活動されている方々だけではなく、そういったことに関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。

NO.	意見の概要	市の考え方
	この条例の制定目的である「活動する多様な主体が繋がることのできる環境づくりに向けた具体的施策を更に推進するため」に対応するためには、現在行われている市民活動や市民協働事業がかかえる様々な問題点を丁寧に洗い出し、科学的に分析した上で、その解決にむけた文言や目標とすべき数値を具体的に書き入れることが重要だと考える。条例を制定する目的がある以上、当然それに対する評価がされなくてはならず、今回の条例には、その際の評価軸になるべき文言や数値こそ重要で必要不可欠だと思う。	本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 「活動する多様な主体が繋がることのできる環境づくりに向けた具体的施策を更に推進するため」には、ご意見のとおり、現状の把握、分析、目標の設定が必要であると認識しております。 今年度、市民活動団体及び自治町内会を対象としたアンケートを実施しましたが、今後、ヒアリング調査等も含めた現状の把握、分析を実施してまいります。
36	4項において「鎌倉市職員は、・・・鎌倉のまちをつくっていくため積極的に関わります」とあるが、市民活動に携わる市民が鎌倉市の職員に積極的に関わってもらいたいと願っているのは「市民活動」ではなく「市民協働」の推進である。地方自治のプロフェッショナルである職員は個人情報や統計資料、国や県からの行政情報等、市民が知り得ない情報を多く持っており、一方、市民は地域に根差し、日々の生活に密着した情報に精通している。こうした其々の特質を持ち寄ることで、先の見えにくい状況下でもよりよいまちづくりを進めて行くことができるのではないかと。以上のことから、「市民活動推進条例」ではなく、横浜市のような「市民協働推進条例」をこそ早急に定めていくべきと考える。	第4項で市職員に関する内容を入れているのは、市職員も「わたしたち」の一員であり、市の立場で職員として施策等を実行していくという側面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということに特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定したものです。 鎌倉市は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えとともに、活動を支援する役割を担っています。第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。その指針の中では、市民活動だけではなく、市民協働の推進に関する具体的施策も盛り込まれるものと考えております。 直接的に市民活動や協働といった表現は使っておりませんが、第1項と第2項では市民活動推進のための基本理念、第3項において協働推進のための基本理念を謳っているものです。
	条例名は異例の長さ故に一瞬目を引くが、少子・超高齢化や低成長時代に向かうこれからのまちづくりのためには、「市民活動」ではなく「市民協働」をこそもっと推進してほしい、推進していかなくては、と考える立場からいえば、このタイトルでは「市民活動」を押し付けられているような印象がぬぐえない。再考を希望する。	まちづくりを行っていく上で、協働は必要不可欠なものではありませんが、協働することが目的ではなく、目的を達成する一つの手段が協働であると考えます。今まで「協働」というと行政と団体との連携を指すことが一般的に多く見受けられましたが、本条例においては、行政とだけではなく、様々な主体同士の協働、繋がりを推進するべく、環境の整備を進めてまいります。 市民活動の推進を図り、それによって、様々な主体のより良い繋がりが、協働が生み出されるものと考えております。本条例がきっかけとなり、一人ひとりが鎌倉のまちのための活動に触れ、その活動の活性化を図ること、また、互いが協力し合える繋がり、協働するための環境を整えていく、ということが本条例の目的です。 条例名、条例本文の「自分たち」「わたしたち」は、「このまちに住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々」としており、市民の方だけではなく、行政、市職員も「わたしたち」の一員として、共に鎌倉のまちづくりに取り組んでいくものであり、市民の方に市民活動を押し付けているものではありません。

NO.	意見の概要	市の考え方
37	今回の意見公募を、市民が自ら行っているグループのフェイスブックで知った。そのことそのものが、既に市のキーパーソンが集まって進めている取り組みであり、本条例の想いが部分的にも既に形を成していると言えるのではないかと。 「自分たちでやってみよう委員会」の設置に関して、その委員会メンバーがどういったかたちで決まるのか、また適正と判断するののかは、素案では不明であったため、決定行程を含め、しっかりとした流れを考慮してもらいたい。	行政、市職員を含め、このまちに住み、働き、学ぶ人、その他このまちのために関わるすべての人々で共に手を取り合い、更に魅力的な鎌倉のまちを創っていくための委員会として「自分たちでやってみよう委員会」が機能していくよう、委員の構成等を含め検討してまいります。
37	すでに旧村上邸、他にも御成小学校旧講堂や八幡宮の美術館、さらには空き家実態調査から空き家バンクの実働等、空き家・遊休不動産という点に限っても、近々の課題が山積みである中、指針の策定を進めつつ「具体的な施策」を次段階ではなく、より併行的に進めていくべきだと考える。また問題解消には、行政、NPO、企業といった組織体の「自分たち」だけでなく、個人としての「自分」が個々に動ける仕組みが必要不可欠と考える。	パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的な施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、いただいたご意見を参考にし、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
38	面白い取り組みだと思う。 最近のまちづくりの手法がどこも似通っている気がする。イノベーターや学生が絡みまちづくりに携わるのは良い事だが、接していき気になるのが「現場感」みたいなのが抜けていて、手法先行が多くみられる気がする。 だからこそ理念に重きを置き、行動ありきで進めていくやり方は賛成である。 「自分たちでやってみよう委員会」には、子供や社会課題の現場にいる方々に入って欲しい。 鎌倉は何か始めると向かい風が強いが、頑張ってもらいたい。	本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 「自分たちでやってみよう委員会」については、本条例を形だけではなく、活用していくための組織として機能するよう、委員構成等も含め検討してまいります。
38	本条例は目的を並べたに過ぎず、条文が全くなく、条例として極めておかしいのではないかと。素案の作り直しを求める。その理由は次の5点。①市、市民、事業者の責務が書いていない②市の協働に関わる姿勢について定めがない。市の義務を明記しない条例は欠陥としか思えない。③市民活動推進のための予算について書いていない。④市民活動に関わり市が情報公開をどう進めるか書いていない。⑤どう市民との協働を進めるか条文で具体的に書くべき。 近隣市の条例をみても、上記のような内容が条文に明記されている。 憲法が内閣の暴走を止めるため、その義務を定め、国民に監視する権利があると明記していることは立憲主義として広く知られている。その意味で、市民活動推進条例で、市の責務を定めた条文は、市の暴走を止めるため、市の責務を定めて、市民との協働を義務付けた内容になっている、と見れなくもない。本条例は、条例の形を成していないが、内容的にも「市民の心構え」だけで「市の責務」が書かれていない。これは明らかに足りていない。	本素案は、鎌倉のまちをより良くしていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での議論を受け、この形となったものです。 本条例は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 市は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えるとともに、活動を支援する役割を担っています。そのため、第1項から第3項とは別に、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めているものです。

NO.	意見の概要	市の考え方
39	条例は市の方針を条文で示すものであり、指針で細部を定めるのは誤りである。指針は市議会の承認をとる必要がなく、地方自治法違反である。議会軽視ではないか。 総務課法制担当の審査で、中身について法律的瑕疵がないかチェックし、法律の形として正しい形で素案を出すべきである。	条例の制定については、地方自治法第14条第1項において、「普通地方公共団体は、法令に違反しない限りにおいて第2条第2項の事務に関し、条例を制定することができる。」とあり、地方自治法第2条第2項では「普通地方公共団体は、地域における事務及びその他の事務で法律又はこれに基づく政令により処理することとされるものを処理する。」と定められています。 本素案は、「市民生活を豊かにするための、施策・行動の方針」を定め、「公共の福利増進」にあたるものであり、自治体の「公共事務」に該当し、地方自治法第2条第2項の「地域における事務」に該当するものであり、地方自治法に違反しているものではありません。 本素案の形とした理由については前項目のとおりですが、パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、いただいたご意見を参考にし、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。 法的な細かい整理はパブリックコメントでの結果を受けて行うこととしています。
40	お金の無駄遣いが発生しないように気をつけながら進められること、多くの人に参加することの2つを実現した上で進められれば素晴らしい取り組みになると思う。	皆様からいただいた意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
41	自分のたちのまちについてそれぞれが関心を持って主体的に取り組める良い条例だと思う。 いろいろな意見もあるかと思うが、こういった意見を吸い上げて全国に発信するのも、鎌倉としてはおもしろいと思う。	本条例の制定をきっかけとし、行政だけではなく、鎌倉に住み、働き、学び、また鎌倉のまちのために関わる方、鎌倉を愛する方と共に、鎌倉のまちづくりを進め、その一人ひとりが主人公として輝ける鎌倉を目指してまいります。
42	制定にあたり検討会等でどういった議論がなされたかわからない。市のホームページにもリンクが見当たらず、理念だけが先走った内容で、市民と行政の役割分担が不明でよくわからない。 市民に何を期待しているか不明なので、これで意見募集してもまともがつかないのではないかと。うがった考えだと「条例が制定されて、はいそれで終わり」になるような気がする。 ここまで進めてきて大変かと思うが、再度役割分担を含めて明確化し、仕切り直しをお願いしたい。	検討会の議事録の公開については、現在第9回までの議事録を公開いたしました。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
43	条例案に反対する。条例案は理念のみが記載され、具体的な内容や実施する施策がまったく記載されていない「白紙委任状」のような内容。示された理念は立派で共感できるが、このような抽象的な文言しかない条例では、最悪の場合、市民活動を厳しく制約するようなことが起きて、なんの歯止めにもならない。 市議会は市民の直接の選挙を経た大切な議決機関であり、条例の内容を定めるといふ市議会の大切な権限を、白紙委任の形で中身不明の委員会や指針にゆだねることは認められない。市議会議員の大切な権限を市役所に譲り渡さないでほしい。	本素案は、鎌倉のまちをより良く変えていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での議論を受け、この形となったものです。 本条例は、市民活動を制約するための条例ではなく、「自分のまちのためにやってみよう」と活動されている方々がより活動しやすい環境づくり、市民が主役の鎌倉を進めていくための第一歩とするものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方のご意見を伺って検討してまいります。
44	趣旨には強く賛同する。 いままでに何度か市役所の仕事を市民の立場から手伝ったことがあるが、「市民の論理」よりも「市役所の論理」が上回ってしまい、市民としてはがっかりしたことが何度もある。市民と市役所が、目的・理念・方法論を共有しながら協働できる体制が、実効性のある形で構築されることを願ってやまない。	本素案における「わたしたち」は、市民の方だけではなく、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 市職員は、市の立場で職員として施策等を実行していくという側面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということを特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定いたしました。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としています。
	今回の素案は、名称のせいで損をしている部分もあるのではないかと思います。覚えにくいという問題もあるし、無理に柔らかくしようとせず、シンプルに理念が広く市民に浸透するような名称が望ましいのではないかと思います。	条例検討会での議論において、多くの方の心に響き、多くの方が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしました。 より多くの人により親しまれる条例とするため、愛称を考えるなど、広報の仕方を工夫していきたいと考えております。

NO.	意見の概要	市の考え方
45	本条例案に賛同する。 大学生時代に鎌倉の街と人を繋げるキッカケを創る手伝いをしたいという思いで、有志で仲間を集めて団体をつくった。 団体創設に至った経緯は、鎌倉で活動する(したい)人同士を繋げることで鎌倉からもっと面白きことが生まれもっと魅力的な街になるのではないかと感じたためである。私は鎌倉で育ちながらも小中高と市外に出ていたため、街の人との接点はほぼない状況だったが、大学生のときに市民と行政主催のあるシンポジウムに参加した際に、鎌倉に住む方々の鎌倉への愛着と地域活動を通して街をより良くしていこうという姿に感銘を受けた。私は、実際にその方々の存在を知るまでは、ここまで多くの方々が自主的に活動をされていることは知らなかった。その人たちの思いや活動内容を共有することで、お互いを理解し、尊重や連携を強めることで、より鎌倉の街が魅力的な街となるのではないかという思いが強くなった。 私が魅力に思うところとして、街活性化のために、どの地域でも行われる均一的なパッケージ施策ではなく、そこに暮らす市民や関係者が自ら課題を発見し、解決に向けて動かされたものが他の街にはマネのできないより鎌倉らしい資源となっているように感じるところである。代々先輩方が動かかれていたように街をより良くしていこうという市民文化を継承するうえでも本条例のようなものがあることで、より市民団体や個人が活動しやすくなることは素敵なことだと思う。	各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 ご意見のとおり、鎌倉市は今までも市民活動団体等による市民活動や地縁組織等による地域活動が活発に行われてきたまちであり、「自分たちのまちなんだから自分たちでやるんだ」という思いを持って既に多くの方が活動されています。そういった方々がより輝いて活動できる環境を整えていくため、また、既に活動されている方々だけではなく、そういったことに関心がない方も含めて、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となる鎌倉、市民が主役の鎌倉をつくっていく第一歩とするものです。
	本条例のタイトルに対して、「長く頭に入りにくい」と「市民任せ」のような印象を受けた。本条例が生まれることで、行政が市民レベルでは成し得ないことの率先的なサポートや、市民の地域貢献活動への経済的・時間的負担による疲弊感の軽減がされるようになること、鎌倉がより面白くなるきっかけが生まれてくることを願っている。	名称については、普段市民活動や地域活動等を行っている方だけではなく、あまり関心を持っていない方も含め、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にしたものです。 より多くの人により親しまれる条例とするため、愛称を考えるなど、広報の仕方を工夫していきたいと考えております。 市民の方に丸投げしているということではなく、条例名、本文内の「自分たち」「わたしたち」は、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 また、市はまちを創っていく「わたしたちの」一員でもありますが、市民活動・協働を推進し、活動を支援していく役割も担っており、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。 行政が決めて一方的に支援をするだけではなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、市民活動・協働の推進の土台としていきたいと考えております。
	タイトルは長いですが、そこがまた気になる条例である。	名称については、普段市民活動や地域活動等を行っている方だけではなく、あまり関心を持っていない方も含め、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にいたしました。

NO.	意見の概要	市の考え方
46	この度、地元で実施されたイベントを手伝わせてもらったが、きっかけは、代表の方が市民運動会で同じ地域の仲間で、そこをきっかけに力で行ってしまっただけで、まちに対する気持ちが、全く同じ想いだったので賛同した。イベント当日は、予想を遥かに超える多くの人に来ていただき、住民もビックリするほどの、ちょっとした異常現象となった。でも、こんなに注目してもらえて、足を運んでもらえて、たくさんのお店を知ってもらえて、本当に有り難く嬉しかった。まさに『自分たちのまちなんだから自分たちでなんとかやってみよう』事例になるのかと思う。 今回、フェイスブックで友達から友達へと繋げて貰って広報をしたのだが、参加店舗の取材をしている中で、活気があった商店街が代が変わるタイミングで、住宅地になってしまう傾向があり、残念に思うし、昔を懐かしむ老舗の店主も多かった。人を多く呼び込むことが出来たら、また商店街を盛り上げることが出来るのか？鎌倉・腰越に特化した何かを始めれば、お店を存続することが出来るのか？課題やアイデアは、まだまだ出し切らず、定まってはいるが、夜な夜な、まちのどこかの店に集まっては談義をしていたりする。 つまり、この条例を応援しているということ。自分たちのまちなんだから、自分たちでなんとかしようと思っただけでも、とても夢があり地元愛がより一層強くなるので、元気が出て楽しく生きていけると思う。	いただいたご意見のような「自分たちのまちなんだから自分たちでなんとかやってみよう」というような思い、行動を後押しし、より活動しやすい環境を整えていくための具体的な施策を検討してまいります。 本条例は、そういった方々がより輝いて活動できる環境を整えていくため、また、既に活動されている方々だけではなく、そういったことに関心がない方も含めて、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公になれる鎌倉、市民が主役の鎌倉をつくっていく第一歩とするものです。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としています。
47	鎌倉には、大きくは旧来から住まわれている高齢者世代とバブル・別荘ブーム以降、ライフスタイルや新しい価値観へのシフトを求めて移住してきた20-40代が市民活動の中心的な存在になっているという認識である。 世代によって政府、民間企業、そして住民の役割に関する考え方が大きく異なるものだと思うが、今まさに自治というものがあり方が大きく変わる変革期にあると思っている。 大きなトレンドとして、資本主義社会の限界から新しい協働経済社会へ移行していこうというなかで、自律、分散、協働を目指す、官民一体となった新しい自治のあり方を模索していくというのは必然的な流れであり、こういった取り組みはたとえ鎌倉市がやらなくても、どこかで必ず行われていく運動になっていくと思う。アメリカに住みたい街No1のポートランドの官民一体となったまちづくりの取り組みは、自然豊かな環境でかつクリエイティブで多様な人材が豊富に集まっている鎌倉がベンチマークすべきスキームであり、方向性として参考になっているかと思う。 自分のまちの自治は非常にうまくいっていると思う。旧世代の方々が懐をしっかりと深く開いているなかで、若手の方々が積極的にまちづくりに参加しているよい例である。鎌倉全体で見れば、起業家や活動家を中心になっている団体や、様々なNPO団体、若手の商店主、多くのクリエイターという、多様でクリエイティブな方々がたくさん集まってきている。 行政の役割は、そういった人材がいかにかつわくして自律的に活動できるようにモチベートするかしかならないと思う。 そのための規制緩和や、ネットワークのハブ、インフラの提供、(必要に応じて助成金)を行っていくべき。あくまで、住民主体のイニシアティブを進めていくのがこれからの時代にあったモデルだと思う。 ぜひとも実現して欲しい。応援するしできることは今後とも協力していきたい。 そういう意味で、数々の反対勢力を押し切ったようなネーミングをつけられた皆さんには拍手を送りたいと思う。	鎌倉は、昔から市民活動等まちのための活動が活発なまちであり、自分のまちである鎌倉のために様々な活動をしてきた方々により、まちが守られ、創られてきました。 本条例は、そういった「自分のまちのためにやってみよう」と活動されている方々がより活動しやすい環境づくり、市民主体のまちづくり、市民が主役になれる鎌倉を創っていく第一歩としたいと考えております。 各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 行政は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えるとともに、活動を支援する役割を担っています。 ご意見のとおり、多くの方々が「ワクワクして自立的に活動できるよう環境を整えていくことが重要であると考えております。本条例を、形だけではなく、活用していくための運用についても議論を深めてまいります。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。 名称については、普段市民活動や地域活動等を行っている方だけではなく、あまり関心を持っていない方も含め、多くの人の心に響き、多くの人が理解し、親しまれる条例にしたいとの思いから、条例の内容を表し、また「条例を見てみよう」と興味を持っていただけるような名称にいたしました。

NO.	意見の概要	市の考え方
48	3年間在宅のコーディネーターに関わり、県内、県外、学会や勉強会などに参加し強く感じたのが「まちづくり」だった。他県で成功している例が全て鎌倉で同じでいいとは思わない。地域性や行政の兼ね合いも色々あると思う。何かをやってみるということは始めて一発で上手くいくとは思えないが、そこを気にしていると何もできない。きっと1人1人思いや願いはあって、どうやり始めたらいいのか、となっているはず。 まちづくりだからこそ、町内会だけでなく、もっと若い十代にも一緒に関わられるチャンス。きっと面白い発想がでる。 30代、40代のリーダーシップをとってほしい世代にも、自分の10年、20年後の将来やわが子の将来の為に何が必要で何を始めたらいいのかなど、「まちづくり」というくくりで学生から高齢の方まで興味がある何かをしてみたいと関心のある方々をつのって、カフェ形式でざっくりしたテーマから話せる場を作れたらいいと思う。「自分の住んでる地域のイメージ」「不便に感じる場所」「こんな地域いいなあ」「こんな場があるといいなあ」「不安に感じる場所」「将来的にどんな問題が増えるだろう」など、多様な世代が関わって話しながら、1つずつチャレンジしてみるきっかけになって「まちづくり」を「自分たちのまちづくり」に形づくられたらと思う。そこから興味もたなかったり、参加が苦手だった人も少しずつ巻き込んでいき、気づいたら、「みんなでまちづくり」に向かっていける形になったらいい。「まちづくり」にはアートのなものはずせないと思う。	各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 その中で、本条例が、ご意見のような「まちづくり」が「自分たちのまちづくり」となるきっかけとなるよう、形だけではなく、活用していくための運用についても議論を深めてまいります。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
49	鎌倉市の市民活動センターは、他の自治体と異なっており市民主体の鎌倉市民活動センター運営会議が運営している。 私は市民活動推進条例、加えて自治基本条例を市長、議員、その他あらゆる場で呼びかけてきた。近隣の自治体はほとんど制定している。 今回のパブリックコメントの実施に当たって、私は鎌倉市が本当に市民活動推進条例の制定を考えているとは思えない。今までも担当部局は積極的ではなかった。条文を作る部門の職員が前向きでないと制定はできない。 市長、職員、議員の義務を明確にした推進条例を制定し、名実共に他の自治体の参考になるような正規の条例を作るべき。私もその一助となることにやぶさかではない。	本素案は、鎌倉のまちをより良く変えていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での議論を受け、この形となったものです。 本条例は、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となれる鎌倉、市民が主役の鎌倉を創っていく第一歩とするものです。 鎌倉市として、本条例の制定をきっかけとし、市民自治の確立に向け、市民力・地域力を高めるための意識向上や、地域での様々な活動の活性化・多様な主体が繋がることのできる環境づくり等に向けた具体的施策を更に推進してまいります。 市は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えるとともに、活動を支援する役割を担っています。そのため、第1項から第3項とは別に、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めています。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
	本文(基本方針)1～3は、「市民が学びあい、立場を越え協力し、実行する」と解釈した。あえて項目を分ける必要性が感じられない。4は、「鎌倉市職員は個人として市民なのだから、1～3は職員のことでもあると自覚するように」と読んだが、この解釈であっているか。行政と市民が一体となって進めるということで、基本方針も両者一体となっていると思うが、行政と市民の役割が違う以上、1～5に落とし込むに至る議論はどのようなものだったのか。	ご認識のとおりです。第1項から第3項までは、「市民が学びあい、立場を越え協力し、実行する」という内容を定めています。項目ごとに、「市民が学びあい」「実行する」という市民活動推進の理念、「立場を越え協力し」という市民協働推進の理念として分けたものです。第4項で市職員に関する内容を入れているのは、市職員も「わたしたち」の一員であり、市の立場で職員として施策等を実行していくという側面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということに特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの意見から、第4項に規定しました。「行政と市民の役割が違う」というご意見のとおり、市は、本条例における「わたしたち」の一員であり、「協力して鎌倉のまちを創っていく」パートナーでもあり、また、そういった環境を整えるとともに、活動を支援する役割も担っているという意見を受け、第1項から第3項とは別に、第5項において、市の役割として、施策の策定及び実施、そのための指針の策定を定めたものです。行政が決めて一方的に支援をするだけでなく、市民の皆さんと共に考え、実行していくことを条例に定め、本条例を市民活動・協働の推進の土台としてくため、本素案の形となりました。
50	条例を新たにつくるのだから、市民がこれを見て、「何かが変わる、やってみよう」と浮き立つものがあり、気づきが大切ではないか。理念条例の価値はそこにあると思う。理念条例というからには、目指すものが書かれていると思う。この条例が、市民活動を推進する上で、立ち戻る理念になるのか。「市民が自覚せよ」という印象が先に立つが、市民自身が自覚することであって条例に声高に書くことなのか違和感がある。むしろ、パブリックコメントの資料にある「条例の目的」に書かれている「多様な主体が繋がること」の環境作り、「NPO、地縁、企業」の相互作用の可能性、市民の力を合わせることで何ができるのか、という心を動かすものが理念であってほしいと感じた。	本条例における「わたしたち」は、市民の方だけに「自分ごと」として捉えていただくことが目的ではなく、行政も含めた、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方全てが、鎌倉を創っていくということ、その思いを共有し、実行していくための理念として条文として定めたものです。ご意見のとおり、「多様な主体が繋がること」の環境作り、「NPO、地縁、企業」の相互作用の可能性、市民の力を合わせることで何ができるのか、といったことがこれからのよりよい鎌倉を創っていくために必要なことであると考えております。地域を支えているのは、行政によるサービスだけではなく、市民活動団体等による市民活動、自治町内会等地縁組織による地域活動、企業のビジネス活動など様々です。これらが相互作用することにより、個性豊かで活力ある地域社会が真に創造できるものと考えております。
	文章上、5項は一文として長いため、主眼とすることが曖昧になっている。	ご意見を参考にし、文章の整理を検討してまいります。
	指針の策定によって基本的な考え方と具体的な施策を示すとあるが、市民活動推進において「行政の公共性、公平性、前例踏襲」が壁になることがある。「活動の環境を整え、支援し、まちづくりをすすめるために」行政としてこの点の整備もできないものか智慧をしばってほしい。	ご意見を参考にし、市民活動推進・協働推進に向けた仕組みづくりを検討してまいります。条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
51	取り組みとして面白いと思う。 具体的な内容はイメージが湧かないが、若い人からだけでなく、子供から高齢者まで幅広く提案を求めて、この条例が根付くまで地道に続けてほしいと思う。	本条例の制定をきっかけとして、鎌倉に住み、働き、学び、その他鎌倉のまちのために関わる方、多くの方を対象とし、関心がない方も含め、多くの方々に「鎌倉のまちを創っていくのは自分自身」、「自分ごと」として捉えていただくことを期待し、その一人ひとりが主人公となる鎌倉、市民が主役の鎌倉をつくっていく第一歩としたいと考えております。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 その中で、本条例を形だけではなく、活用していくための運用についても議論を深めてまいります。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
52	他市の自治体の条例を参照しても項目と条文についてはわずかな違いであり、条例検討会は、本条例を特徴づけるための理念や目的を検討する会であり、条文に起こすのは行政で行うとの説明であったと記憶している。しかし、素案には本来盛り込まれるべき条項が一切なく、条例の目標すらつかめない。 条文を読んだ市民団体の方々に行政が協働というものの何に取り組みようとしているか皆目想像がつかない。市民活動がますます活発に行われる鎌倉を目指せるような工夫をお願いしたい。本年度中に詰めることが出来なかったとすれば、慌てて仕上げるのが決して得策ではないと思う。よく練りこんだ条文が発揮できる条例づくりを目指してほしい。	条例検討会については、条例制定に向けて、市民活動や協働について様々なテーマで話し合い、鎌倉市の市民活動・協働の現状と課題及びその解決策について、それぞれの視点から、生の声で沢山の意見を出していただきたいということで委員の皆さまに集まっていたきました。そのご意見をもとに、市で条例たたき台をつくり、随時検討会にフィードバックしながら議論してきたものです。たたき台は、随時検討会のご意見を反映したものを提示し、その度に検討会で議論していただきました。 本素案は、鎌倉のまちをより良く変えていくためには、市職員も含め、まず鎌倉に関わる多くの人、一人ひとりに「自分が鎌倉のまちを創っていく一人」であるということ、「自分ごと」として捉えてもらうことが重要であり、本条例をそのためのツールとして生かすためにはどういった形がより相応しいか、という検討会での意見を受け、この形となったものです。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
	本条例案の主旨、決意表明そのものはとても良いものであると思う。ただし、目的の中にも触れられている既存の行政サービスの仕組みが何故うまく機能していないのかを社会変化等の外部要因にだけ向けるのではなく、行政内部の振り返り、改善も実施していかないと制定後の実際の施策実施において、新しい条例も絵に描いた餅になる危険性があるのではないかと。 この条例案の決定プロセスとして真に有効なパブリックコメントを求めるのであれば今までの議論の資料等を公開すべきではないかと。検討会、あるいはワークショップ等の各回の資料あるいはまとめ等、わざわざ作る必要は無く、あるもので良いと思う。申し込めば見せませず、は姿勢が問われる。NPO、市民団体にはどのように意見を求めたのか。その意見は自治会からの回答も含めて回答数、内容等公開すべきではないかと。 アライバイ作りのプロセスではなく、より実効性のあるプロセスを期待してのお願いである。よって、今後、各項目の公開実施を検討してほしい。	検討会の議事録の公開については、現在第9回までの議事録を公開いたしました。 公開の事務手続きが遅れておりますが、その他の資料、また今後の検討会等についても、検討の過程をより多くの方にお伝えできるよう、内容を整理し、公開作業を進めてまいります。

NO.	意見の概要	市の考え方
53	地域組織として機能が低下しつつある自治会に市民意見を求めることも少し無理があるような気がする。自治会アンケートの設問をみると、現状の問題点を抽出するような設問もあるが、自治会を活性化させる自治会所管部署との事前摺合せの上での設問設定なのか疑問が湧く。すり合わせてこれであれば尚更である。 また、パブリックコメントを求める際には既存の市民活動との連携施策と本条例案の関係も市の考えを表明するべきではないか。例えば、「市民活動団体と市による相互提案協働事業」等を強化していくためにもこの条例を定めるのかなど。協働事業等の今までの総括を踏まえ、本条例案との今後の関係はどうなっていくのか等、今後のプロセスの中で、協働事業等に対する現段階での市の考えと今回の検討段階での結果も開示願いたい。 要するに、数人の傍聴者を置いてそれでよし、とするのではなく、議論の過程を市民皆がアクセス出来る状態を作りつつ、市の様々な施策を考慮に入れながら推進願いたい、即ち、皆の英智を集めてより良いものを創り出して行こう、ということ。 本条例案の主旨そのものは当たり前ではあるものの、とても素晴らしいものであると思う。ただし、現実的な諸施策に反映され実施されなければ市民、諸団体、市にとって無駄、あるいは逆効果(行政に対する期待の高まりの後の無力感の増大)となる。制定後の具体的な施策実施を含めたスケジュール感を持つての今後の作業に期待している。大きな期待を込めての意見である。	活発に活動を行っている地縁型組織もありますが、例えば、役員が単年で交代するような場合は、課題を感じつつもなかなか手が回らない、高齢化による自治町内会活動の担い手不足など、ご意見のとおり、組織運営に様々な課題を抱えているのが現状です。 地縁型組織だけでは解決できない課題であっても、例えば市民活動団体、企業、学校など、他の主体と協力することにより、解決の道筋が見える場合もあると考えます。指針の策定にあたっては、そういった繋がりが生まれるための環境づくりも検討してまいります。 今年度、市民活動団体及び自治町内会を対象としたアンケートを実施しましたが、今後、ヒアリング調査等も含めた現状の把握、分析を実施してまいります。 本条例の制定をきっかけとし、市民自治の確立に向け、市民力・地域力を高めるための意識向上や、地域での様々な活動の活性化・多様な主体が繋がることのできる環境づくり等に向けた具体的施策を更に推進していくため、本条例の検討を進めてまいりました。その中では相互提案協働事業も含めた市の現行施策の見直し等が必要であると認識しております。 検討会においても、相互提案協働事業の応募方法・選考・評価の見直し、事業を継続させるための仕組みが足りないなど、制度の見直しに関する意見がありました。現在ホームページに掲載している検討会の議事録でも議論の過程を公開しております。 協働に関する制度としては「市民活動団体と市による相互提案協働事業」がありますが、それだけではなく、市の事業においては、各所管課で様々な協働の形で実施しているものがあります。相互提案協働事業だけではなく、市の事業全体に対しての協働の仕組みを検討してまいります。 パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。
54	市への関わり方を理念として共有するよい条例だと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
55	本質的で世界に誇れるコンセプトの条例だと思う。	皆様からいただいたご意見を参考にしながら、条例の制定に向け、進めてまいります。
56	何とも漠然とした条例だと思う。どうとでも解釈できてしまうし、悪く言えば、お役所の良い方にもっていける印象。自分たちのまちなんだから(役所のせいじゃないで)自分たちでなんとかやってみよう・・・と言っているように感じる。 具体的に事例を挙げて、例えば「市民でない職員は鎌倉市内の空き家に住もう！」など宣言してほしい。	各論について述べていない本素案の形式とした理由の一つとして、時代と共に変化し、また新たに発生してくるあらゆる課題に対して、行政だけではなく鎌倉に住み、働き、学び、またその他鎌倉のまちのために関わる方々と共に考え、時代に合わせて対応していくためのプラットフォームとして本条例を機能させることを目的としたものです。 本素案における「わたしたち」は、市民の方だけではなく、鎌倉に住み、働き、学ぶ人々その他このまちのために関わる全ての人々としており、その中には行政、市職員も含まれています。 市職員は、市の立場で職員として施策等を実行していくという側面もありますが、鎌倉で働き、鎌倉のまちのために関わる個人としても、自分自身が鎌倉のまちを創っていく一員であるということの特に自覚し、自ら積極的にまちづくりに関わっていくことが重要であるとの思いから、第4項に規定いたしました。

NO.	意見の概要	市の考え方
57	物事には筋があり、「指針」という重要な骨の部分を後回しにして、議会審議の対象にしなくてよいというのが全く理解できない。審議の対象にするべき。 中身をしっかりと決めずして、外見的なしつらえだけ作って、「作りました」というのは大人のやる事ではない。急いで議会にかけずに、きちんと「指針」をつくり、中身を市民に見せてほしい。	パブリックコメントでいただいたご意見を受け、条例のみを先行して制定するのではなく、条例とあわせて具体的施策等に関する指針の検討を行い、その上で条例についても更に議論を深めることといたしました。 条例及び指針の検討においては、条例検討会において継続して検討するほか、ワークショップを開催するなど、より多くの方々のご意見を伺って検討してまいります。

募集期間終了後ご提出いただいたもの(今後の事業推進の参考とさせていただきます)

1	資料にある条例の目的について、「ライフスタイルの多様化」とあるが、2ヶ月間の検討会で、鎌倉の現状、個々の例などをどれだけ把握・分析できたのか。「少子高齢社会の到来」「女性の社会進出」というだけでは日本全体で言われていることの「空気」のような言葉に思える。 「これまでの行政サービスのあり方では、住民のニーズを満たすことが難しい・・・」とあるが、「行政が出来ないから自分たちで」と読める。行政の責任放棄とも受け取られ、私たちの税金でお給料を貰って働いている人が出来ないことを、市民がすることに疑問が残る。 前文について、過去にも現在にも、市の歴史的遺産を守ろうとしてきたのは市民。その都度に市と市民が衝突して来た。 第5項について、「この条例の趣旨を反映したものにするため適宜見直すものとし・・・」とあるが、1～5からは、趣旨がはっきりしない。 結局鎌倉のまち全体の事を考える委員会ができるということか。鎌倉の歴史的遺産だけでなく、子どもの事、世代間の事、大人の学びの事、人と人との関わり合いの事、全てをこの委員会が考えるということか。 この条例案からは、市として何がしたいのか、方向性も見えない。鎌倉の問題性の精査と、その解決策としての筋の通った趣旨なくして、どのような人材を集めるのか疑問である。そのようにして集めた委員会が出た意見で指針を策定、と言うのは危険性すら感じる。 この趣旨が、本気で市民に任せようというなら、市民の発言や発表の自由が確保されるべきだが、最近の鎌倉市は、国(政権)に対して付度し右傾化しているのではないかと感じる。市に任せた委員の人選と、方向性のはっきりしない条例のもとで、様々な指針が後から策定されることに、非常に不安を感じる。